

1. 保険会社の財務体質が改善

大手生命保険会社9社の2004年3月期の決算が発表となりました。

株価の回復により保有国内株式の含み益が大きく膨らんだことで、経営の健全性を示すソルベンシーマージン（保険金の支払い余力）比率が9社とも全て大幅に向上しました。

ただし、従来型生命保険の生保離れば相変わらず続いている状態で、今期もかなり苦戦しております。新規契約高は9社の内5社が2桁%の大幅減少となりました。

それとは対照に、カタカナ系やひらかな系の生命保険会社では大幅に契約を伸ばしている保険会社もあり、2極化が鮮明となりました。長期に渡る景気の低迷や、1所帯当たりの所得の減少などが、保険料の負担をさらに抑えようとする傾向となりました。

損害保険会社大手5グループの2004年3月期も株価の回復が大きな要因となり増益となりました。

国内における自動車保険などは低迷が続いているが、子会社による生命保険やアジアを中心とした海外での保険料収入が伸びています。

間もなく当社にも取引保険会社のディスクロージャー誌（財務や業務の情報公開誌）が届きます。ご興味のある方は、当社に備え付けしておりますので、ご覧頂ければと思います。

2. ここがへんたよ日本の保険

私が生命保険の仕事を始めて6月で満10年になります。そこで、今までの経験に基づき日本生命保険における偏った価値観や常識のウソなどを連載したいと思います。

今回は生命保険の保険料について述べたいと思います。

保険料は安いに越したことはありません。しかし、ただ単純に保険料が安いと言うことだけでの判断はかなり危険な判断と言わざるを得ないでしょう。

保険料の構成内容は、予定死亡率、予定事業費率、予定利率から成り立っています。

予定死亡率は生命表に基づき算出されますが、平均余命の伸びつつある現在では、より新しい生命表を使用していれば保険料は下がる要因となります。

予定事業費率は保険会社の事業に関わる費用を下げれば保険料は下がります。

予定利率は高ければ高いほど保険料は下がります（保険期間が短い保険はあまり影響は無いが、保険期間が長ければ長いほど影響が大きくなります）。

以上の3点に関しては、保険会社によって温度差がありますが、極端な保険料の差額としては現れません。

当初の支払い保険料を安くする方法は2つあります。

まず1つ目は保険期間を極力短くすることです。保険期間が1年間という保険が最も安い保険料となります。ただし、年齢が重なる毎に保険料は徐々に上がります。さらに、高齢になると保険料が急激に高騰し、保険料の支払いそのものが出来なくなる恐れがあります。よって、生涯設計には向かないタイプの保険となります。団体定期保険や各種共済などがこれにあてはまります。

そして、もう1つは終身医療保険や終身ガン保険によく見かけるタイプですが、保険料の支払いが一生継続するという、いわゆる、終身保障の全期払いと言う内容です。

保険料の支払いが一定年齢や期間で終了する終身保障商品は、当初の支払い保険料が高くなります。それに対し、保険料の支払いが一生継続する（全期払い）の場合、支払い保険料は安くできます。しかし、長生きすれば総支払い保険料は増え続け、また、年金受給時に生命保険料の支払いが困難となる状況も考えられます。

通信販売による生命保険の販売では、保険期間が10年（自動更新型）と短い物や、終身保障タイプの終身払いと言うのがほとんどです。

その理由は簡単です、当初の支払い保険料が安くなると言うことです。契約者となる消費者が目先の安さにこだわるがために、売りやすい商品だからです。

本当は、通信販売だけではなく、今までごく当たり前に販売されていた生命保険のほとんどが上記のタイプとほぼ同じと言えます。契約者の目先の利益（保険料が安くなると言う）と保険会社の思惑が妙なところで一致して、保険会社が一番利益の出るタイプの生命保険にほとんどの方が契約をしているという図式となっています。

ここで注目していただきたいのは、一生に支払う総支払い保険料がいくらになるかです。それも考えませんと、結局高額な保険料負担になることが想定されます。

生涯の保障を得る場合（終身保障や長期の保障など）当初の支払い保険料を下げることにこだわれば、更新型や保険料がステップアップするタイプを選択する事になり、結果的に総支払い保険料は高額になります。

また、老後のことも考えれば、年金受給時に保険料負担が重くのしかかってくるタイプは継続が困難となるリスクも想定しなければなりませんので、できるだけ、働いている間に一生涯の保障は残したまま、保険料の支払いを終えることも重要となります。

終身保障タイプを短期間で支払いを終える有期払い方式では、もう一つの大きなメリットがあります。それは解約返戻金（CV）です。解約返戻金を加味した実質保険料はさらに安くなります。

よって、保険料を考えるときは当初の保険料だけではなく、総支払い保険料も算出し、さらに解約返戻金を加味して考えることが出来れば、大きな失敗は防ぐことが出来ます。

あなたは、目先の保険料にこだわりすぎていませんか？

3. リスクのクスリ

☆リスクマネジメントプロセスの分析・評価

・分析評価のポイント

リスクマネジメントプロセスの最終段階において行われるのが、プロセスの分析・評価であります。リスクの発見、リスクの分析・評価・事前対策・事後対策全般に渡って、その手順と費用対効果を検証します。このステップは、リスクマネジメントスタッフにとっては、自己評価の場となり、結果的に甘い評価に流れがちになります。そこで、客観的な評価基準をあらかじめ明示し、第三者による分析・評価を行うことが望ましくなります。

・リスクコストから見た評価

分析評価を行う判断指標の内もっとも重要なのはリスクコストです。日本には統計は有りませんが、米国ではティリングニタワーズペリン社とRIMS（保険管理協会）が、毎年リスクコストの調査をし、その結果を公開しています。

リスクコストとは、リスクマネジメントにかかる全ての費用で、正味保険料、保有損失、リスクコントロールおよび損害防止費用、管理費用の4つで構成されています。

1995年の調査結果によりますと、全業種平均のリスクコスト対売上割合は、6.49ドル／1000ドル、リスクコストの内訳は、正味保険料が38.7%、保有損失が56.5%、外部サービスリスクマネジメント部門コストが4.8%となります。

また、リスク別内訳では、賠償リスクが40.7%、労災リスクと同じ40.7%、財産リスクが18.7%であります。このほか業種別コストも掲載されており、自社のコスト評価の参考になります。

・その他の評価方法

リスクマネジメントプロセスの評価は、リスクコストによる評価も含め、最終的には長期的な視点に基づいてなすことが必要です。ただし、短期的にシステムの問題点を洗い出すためには、コストパフォーマンスのほか、システムの各段階における定期的なチェックが必要となります。チェックに際しては、計画と実行の間の不適合、意志決定における不適合、計画立案部門と実行部門とのコミュニケーションの不適合の発見等がポイントとなります。

4. QOL てなに？

Quality of Life の略語です。人間らしく生き生きと暮らしているかを示す「生活の質」「生命の質」という概念です。

医療分野では欧米の末期がん患者のホスピスケアの現場から、ゆとりや快適を取り戻そうとQOL向上の試みが広がりました。

新たな医療機器や治療法の登場で、治療中である患者の痛みや不安の軽減と治癒後においても普通の生活を送れるという配慮、生き甲斐や目標の持てる長期療養といった取り組みが求められています。

治療方法にいくつかの選択肢がある場合が多いですが、日本ではセカンドオピニオンもまだ普及途上と言えます。是非活用して、患者の尊厳を守るための治療を要求するべきと思います。また、医療機関側も顧客第一の経営を考える必要があります。

QOLは最近、福祉や介護の現場でも重視されつつあります。

5. セミナー案内

☆ランチェスター経営戦略で有名なあの竹田陽一さんが初めて来県します。

私が最初に竹田さんを知ったのは、約13年前に購入した本「一枚のはがきで売上を伸ばす法」でした。その後「一枚のはがきでお客様を感動させる本」「小さな会社★儲けのルール」「小さな会社★社長のルール」「一通の感謝コミで儲けなさい」を購入し読ませていただきました。また、ランチェスター経営の経営戦略塾を西塔社会保険労務士事務所さんで約1年間に渡り学んで来ました。

今回、西塔さんがあの竹田陽一氏を迎えてセミナーを開くことになったことを知り、即座に申し込みをさせていただきました。

このニュースレターを読んで頂いている読者の皆様にも、是非紹介したいと思います。

期 日 平成16年6月22日(火)

場 所 パレスグランデール 本館2階 エアルアンティス

山形市荒楯町1-17-40 ☎023-633-3313(代)

主 催 有限会社 あんしん ☎023-662-5465

会 費 10,000円

お申し込みは当社、または(有)あんしん迄 お早めに…

6. 外貨建運用のお知らせ

分散投資は資産形成または運用において重要な要素となります。

その分散するアセットクラスの中でよく利用されるのは、外貨建て商品となります。

通貨の分散化は必要不可欠の手法です。日本円を中心として、国際的基軸通貨のドルそして、最近強さの増したユーロは世界中から信頼されている通貨となります。

そこで、アリコジャパンから発売されている「米ドル・ユーロ建個人年金保険 レグルスⅡ」が発売以来最高の積立利率となりました。

米ドルの場合10年据置タイプで3.36% (最初の1年間は4.36%)となります。

ユーロの場合10年据置タイプで2.69% (最初の1年間は3.69%)となります。

2004年6月1日から6月15日に成立分の積立利率です。

外貨建金融商品は円に換える時に為替変動リスクにさらされる可能性があります。

据置期間の延長や、外貨受取などのリスク軽減手段も活用できますので、詳しくは別紙参照の上、当社までお問い合わせください。



発行者

有限会社 FPコンパス 武田幸夫

〒994-0054 山形県天童市荒谷2589

TEL 023-654-8831 FAX 023-654-8832

E-mail tide@mm.neweb.ne.jp